

〈子どもの可能性について〉のお悩みシリーズ

第2弾

幼児期の「英語力」は どう身に付けさせるべき？

今回は、子どもに英語を身に付けさせたい親御さんからの質問です。小学校での必修化もあと2年。幼児期に英語力を育むコツを、徳田先生に伺ってみましょう。



幼い頃から親しめば 英語嫌いの予防につながる

大前提として、幼児期に大切なのは、日本語の語彙(ごい)を増やして、思考の幅を広げていくこと。なぜなら、日本語を母語とする人が、ものの考えるときに使うのは日本語だからです。

ただ、成長して英語力が必要になったとき、文法や単語の暗記など、学校の授業で英語嫌いになる子がいることも事実です。幼い頃から英語に慣れ親しむことは、予防策の一つとして有効といえるでしょう。

まずは英語の「音」「雰囲気」に 慣らして学びの土台作りを

英語に親しみを持つためには、英語の「音」と「雰囲気」に慣れるのがもっとも大切です。最初はアニメや歌を見聞きして英語の存在を知り、さらには外国人と出会うことで世界にはいろんな人種がいる、ということを学ぶのもいいですね。アルファベットや熟語を覚えることや、正しい発音は、ぜひその次のステップで身に付けさせてあげてください。

次号は…

「絵画・音楽」における
子どもの可能性について
お答えします。



徳田先生監修「子育て・育児支援サイト」もチェック！

子育てに役立つ情報が盛りだくさん。
パソコンやスマートフォンで気軽にご覧いただけます。

パソコン・スマホでアクセス!! ▶

キッズハグ

検索

<http://kidshug.jp>



徳田克己 先生

筑波大学医学医療系教授、教育学博士、臨床心理士。専門は子ども支援学、子育て支援学、気になる子どもの保育。アジア子ども支援学会会長、イオンパーセントクラブ理事。「筑波大学発ベンチャー子ども支援研究所」の所長として、幼稚園や保育園の先生たちのコンサルタントとしても活躍。年間100件以上の講演を各地でおこない、育児に悩む方からの相談に応じている。著書に「親を感ずる専門家の言葉」、「お母さんかうなずいた数だけ子どもは伸びる」、「育児の教科書「クレヨンしんちゃん」」など。